

# 北海道における メディカルツーリズムの限界と ヘルスツーリズムの可能性

提出日

2016年1月29日

指導教授

齋藤 正武 准教授

中央大学商学部

学科 商業貿易学科

学籍番号 12C3148013J

氏名 松田 祥子

## 北海道におけるメディカルツーリズムの限界と ヘルスツーリズムの可能性

中央大学商学部商業貿易学科

齋藤正武ゼミ

松田祥子

政府は、日本の観光立国と健康大国を目指しており、両方の目的に合致する「メディカルツーリズム」が注目されている。メディカルツーリズムとは、医療行為を受ける目的で他国へ渡航することである。国内においては、高齢化が進み、健康志向が高まる中「ヘルスツーリズム」が注目されつつある。ヘルスツーリズムとは、健康・未病・病気の方、また老人・成人から子供まで全ての人々に対し、科学的根拠に基づく健康増進を理念に、旅をきっかけに健康増進・維持・回復・疾病予防に寄与するものである。近年、国家戦略としても取り上げられはじめた。

事実、メディカルツーリズムについては、国民皆保険制度の崩壊や医療に営利的要素を持ち込むことを反対として、日本医師会は賛同しかねている現状があり、メディカルツーリズム発展の妨げに影響が大きい。しかし、医療機関からの協力を必ずしも必要としないヘルスツーリズムは、まだ発展の余地がある。しかし、メディカルツーリズム、ヘルスツーリズムという言葉は、日本においてまだあまり馴染みがない。

そこで本研究は、メディカルツーリズムとヘルスツーリズムに重要なキーワードが「健康」と「観光」であると考え、それらが潜在的に多く存在する北海道に注目し、北海道におけるメディカルツーリズムとヘルスツーリズムに関して研究を行った。具体的には、「北海道において、メディカルツーリズムの発展には限界があるが、ヘルスツーリズムは今後発展する」と仮説を立て、北海道におけるメディカルツーリズムとヘルスツーリズムの現状を、帯広市の北斗病院、旭川市の吉田病院、旭川市役所、旅行会社のJTBに取材を行うことで、検証を行った。

その結果、北海道におけるメディカルツーリズムは、医師会の理解が得られていないこと、アクセスの悪さ、病院の方針の問題から発展には限界があり、日本におけるヘルスツーリズムは、日本は超高齢社会でそのシニア層の多くが健康と旅行に興味があり、アブセンティズム、プレゼンティズムの問題により企業が健康に関心を持ち始めていることから、発展する可能性は高く、その動きがある中で、北海道は健康増進に関する観光資源が豊富にあり、多くの人々が北海道に魅力を感じているということから、北海道におけるヘルスツーリズムは発展の可能性が高いという結論が得られた。

今後の課題としては、医療機関、自治体、企業の三位一体の改革についてや、日本全体におけるメディカルツーリズムやヘルスツーリズムの動きについて議論するべきである。